

心たいらかにのびやかに

中津市長 奥塚 正典

たんととう
「坦蕩蕩」と言う言葉があります。「目の前の細かいことにこせこせせず、心ひろく落ち着いてことに当たる」、こんなことを言い表しているようです。出典は論語。反対は、「ちようせき長戚戚」で細かいことにくよくよすると言った意味です。このことは、県庁時代に何がきっかけだったか広瀬知事から教わりました。15年ほど前のことで、文字も読みもめずらしくどういう意味か調べたことを覚えています。

確かに毎日、諸事に追われ過ぎしていると、ついつい大事なことを忘れ小さなことにこせこせしてくる自分に、はたと気づくことがあります。思考の隘路あいろに入り込んで、些末などこころにこだわり本来の目的を忘れがちになるのです。もちろん目の前で身の回りに起こることの中にも、きちんと対処しなければならないことは数多くあります。しかし、物事の本質をしっかりと見つめ、心ひろくゆったりのびのびと考え、分からないことはよく吟味し判断していくことは極めて大切です。

自分のことを振り返っても、例えば子育て、じっくり子どもの考えを聞き長い目でゆっくり成長を見守ったりすればよいのに、ついつい余分に口を出して本人のやる気をそぐこともあるでしょう。また、仕事でも部下にさせてみてその結果で成長を促せばよいものを自分が先に手をつけてしまい、かえって依存心を生ませるのかもしれない。

昨年末、中津出身で神戸大学（神戸高等商業学校）の創設者水島鍊也先生のお孫さんから先生の遺品の寄贈がありました。その中に犬養毅揮毫による「坦蕩 =」の書がありました。



寄贈を受けた「坦蕩 =」の書

どういういきさつでお持ちであったのかわかりませんが、改めて自らを省みるよい機会を得ました。

「坦蕩蕩」に「一生懸命」。心たいらかにのびやかに、しっかり市政に当たります。